



方針に基づき予算編成

地方自治体の「予算」は、事務事業の「執行」「財源」「支出」の3つの「計画」を金額として示したものです。

予算を編成するに当たっては、まず、基本的な考え方や留意事項を示した「予算編成方針」を作成します。

予算は、大切な税金で成り立っています。方針を掲げることで施策の「選択」と財源の「集中」を行い、重点的かつ効果的な配分を図っています。

現在、市では、3月定例議会に提出する平成25年度予算の編成作業をしています。そこで、今回は、来年度の予算編成を行うに当たって基本となる5つの考え方について説明します。

図 財政課 (☎ 69-0160)

5つの考え方で予算を編成

産業の未来発展

経済・雇用情勢は依然として厳しい状況です。そのため、「企業立地推進・商工業総合振興条例」の制定、平成26年度の京都縦貫自動車道全線開通に備えた準備など、さまざまな産業の本格的・持続的な発展を目指します。

環境循環のまちづくり

海、山、里の豊かな自然環境など、本市特有の魅力を活かしたまちづくりを推進します。特に、本市の強みを活かすため、新エネルギー創出を含めた再生可能エネルギーの地域展開など「環境未来都市」構築へ向けた取り組みを推進します。

ひとづくり

未来を発展させるには、「市民力」の醸成が不可欠です。教育、就業、スポーツ、観光など、さまざまな分野で活躍いただける「ひとづくり」と同時に、生涯を通じて活躍できる百歳健康長

寿社会、生涯現役社会の構築を推進します。

未来への基盤づくり

社会基盤にはまだまだ十分な面も多く、市民活動・企業活動などを行うためのハード・ソフト両面の環境整備推進が急務です。北近畿タンゴ鉄道の利用促進、下水道などの社会インフラの整備など、さまざまな分野での基盤づくりを推進します。

健全な財政基盤づくり

平成27年度からの普通交付税の縮減を乗り越え、持続可能な財政構造の構築を目指します。財政健全化指標にも留意した行財政運営を推進。具体的には、歳出予算の抑制、合併特例措置通減対策準備基金への5億円以上の積み立てなどを行います。

300億円台前半を目標に

以上の5つの考え方を中心に、平成25年度の予算が編成されることとなります。一般会計の当初予算では、

峰山や久美浜地域の統合保育所、新火葬場などの大型の建設事業を予定していますが、予算の規模としては300億円台の前半を目標に掲げています。

また、「京丹後市総合計画」に沿った事業や、「市民総幸福の最大化」を目指すための施策に加えて、来年が丹後建国1300年という節目の年であるため、本市のほか、舞鶴市、宮津市、与謝野町、伊根町の北部3市2町で組織する実行委員会の広域的な取り組みも盛り込む予定です。

予算編成の透明性を確保

市の市税収入は、景気の低迷や人口減少などもあり、年々減少傾向にあります。厳しい財政状況が続きますが、市民の皆さんの知恵や協力により、本市の発展を目指します。

なお、予算編成の透明性を高めるため、予算編成方針や予算の編成過程について、市ホームページ（市の財政）で公開しています。[http://www.city.kyotango.lg.jp]